

- 1 日時 平成28年8月9日(火) 11:50~12:45
- 2 場所 交流ひろば
- 3 参加者 一般社団法人子どもの読書サポートアシード
(市側) 都市デザイン課 本間主査、今井主事、図書館 永田主査

<ライブラリーセンター>

- ・分館を作る考えはないのか。大学の図書館は敷居が高く、一般市民が気軽に行ける感じがしない。個人的にコミセンに図書館があるのが理想である。
- ・図書館の規模が2倍になるとのことで、人の問題がある。図書館の仕事は専門職であり、サービス業である。ただ人がいればいいというものではない。
- ・スマホができてから、読書の時間がスマホを使う時間に変ってきている。読む層を広げるターゲットとしては、時間のある団塊の世代がいいと思う。
- ・ターゲットの掘り起しをするには、魅力的な本を紹介する仕掛けが必要で、それには本の目利きできる人や本の見せ方が大事になってくる。
- ・新しい図書館は、大人と児童のスペースが一緒になる。いまは児童室が分かれているため、子供連れも安心して来れるところがある。そのあたり難しい。
- ・中山町に新しく図書館できたときは、子供の声がこだまするような図書館というのをコンセプトにして話題になった。
- ・読み聞かせ部屋は、周りに本棚を置かないでシンプルな部屋の方が子供が集中できる。
- ・(読み聞かせ部屋の規模として) 1回25人+親が座れるくらいのスペースがあるといい。